

公約達成度

中間報告 平成15年4月～平成16年12月まで

- 自らの「選挙公約」に責任を持ち、その達成度を中間報告します。
□任期は残り2年、100点目指して全力投球します!!

Each time a man stands up for an ideal, or acts to improve the lots of others, or strikes against injustice, he sends forth a tiny ripple of hope, and crossing each other from a million different centers of energy and daring, those ripples build a current that can sweep down the mightiest walls of oppression and resistance.

『すべてが急変している今日、時代遅れの教養や使い古されたスローガンはもはや通用しない。(中略)ひとりの人間が理想のために立ち上がり、不正を攻撃し、苦しんでいる人々のために行動を起こす度に、彼は希望のさざ波を送り出している。100万人が行動を起こせば、それらのさざ波は、いかなる迫害、いかなる抵抗をも突き破る津波となり、歴史をも変えてしまうエネルギーとなり得るのだ。』

みなさんのおかげで一昨年の三期目の当選を東北一番の得票数で押し上げていただくなど県議会議員にさせていただいてから今年の4月でちょうど10年を経ることになります。この間、常にベストを尽くしてきたつもりですが、みなさんのお支えがあればこそであり、改めて感謝と御礼を申し上げます。

さて、上記の言葉は、ロバート・ケネディが1967年6月にニューヨークのフォード大学で行ったスピーチの一節です。

このスピーチの中で彼は、まず世界がひと昔前に比べてずっと小さくなり、人間はどこに住もうともはや自分たちだけのことを考えて生きてはいけぬ。一国の問題は全人類の問題であると定義づけてから話し始めたものです。未来は与えられるものではなく、自らが努力し勝ち取るものであるというメッセージは今尚心に強く刻まれています。

今後とも理想主義の「志」を高く掲げながら、「公約」の重みを大切に、その実現にひたむきに取り組んで参ります。

宮城県議会議員 秋葉 賢也

秋葉賢也(あきばけんや)プロフィール

昭和37年7月3日宮城県生まれ、42才。角田高校を経て、中央大学法学部卒業。東北大学大学院法学研究科博士課程前期修了。(財)松下政経塾卒塾(宮城県初)。宮城県議会議員(三期目)、総務企画委員会委員、地方分権・地方財政自立改革調査特別委員会委員長、宮城県都市計画審議会委員、宮城県私立学校審議会委員、宮城県トリアスロン協会副会長、宮城県セーリング連盟顧問など多方面で活躍中。著書:「地方議会における議員立法」(文芸社)、「東北の夢創造」(ぎょうせい)。趣味:野球・空手などスポーツ、読書、映画。



年間の公約

私は公約を守ります (I will keep my promises)



2005年(平成17年) 春季特別号 発行所 秋葉けんやサポーターズ事務所

購読料 年額6,000円 振込先 秋葉けんや後援会 口座番号 七十七銀行本店(普)6385206

春特別号 公約達成度 中間報告

新春フォーラム&懇親会

2005 Kenya Akiba



フォーラム テーマ『宮崎 駿の世界を語る』 ゲスト『アニメージュ』創刊編集長 宮崎アニメの初代プロデューサー 尾形英夫氏

- ◇日時 平成17年2月17日(木) 開場 午後5時30分 フォーラム 午後6時～7時 懇親会 7時スタート
◇会場 パレス平安(022-265-5111)
◇会費 6,000円(お得意なペアー券10,000円もあります)
◆お申し込みは、お電話でも受付中ですが、事務所あて FAX(375-0057)をいただければ幸いです。

◎地元の大手書店をはじめインターネットのAmazon・コムやブックワンなどでも入手できます。



秋葉議員の3冊目の著書 『地方議会における議員立法』 おかげさまで第二刷が発行!!

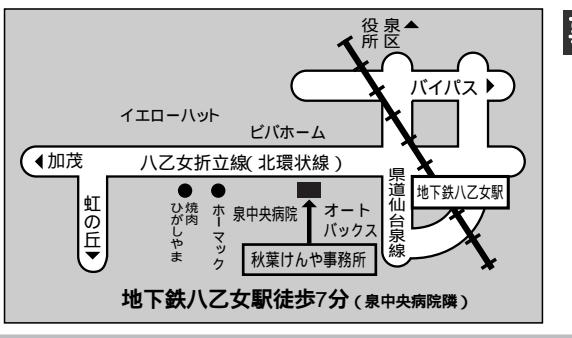
お知らせ サポーターズ掃除の会 毎月第二日曜日 午前8時に 秋葉けんや事務所 に集合

秋葉けんやのActive Photography



- ▲県議会では毎回登壇し、具体的な政策を提言しています。
▲地方分権改革調査権特別委員会の委員長として、条例や政策提言を検討しています。
▲いつも現地現場主義で頑張ってきました。
▲2003年いっぱいまで終了となりました地元FM局の「賢ちゃんのいとしのサザンPart II」、大変お世話になりました。
▲駅頭の演説は秋葉議員の原点です。雨の日も雪の日も定期的に続けてきました。
▲いつも歯切れよく、そして、わかりやすい身近な政治がモットーです。

ボランティア募集 相変わらず資金面に乏しい秋葉けんや事務所では、秘書はもとより、常勤のスタッフもおりません。次の項目で、お手伝いいただける方は是非ご連絡下さい。
事務所での電話・来客への対応都合のよい時だけでOKです。
郵便物の発送作業や県政報告会等でのお手伝い。
街頭演説の時の会報配り。
カンパのお願い。
切手やハガキをカンパして頂ければ幸いです。



事務所のご案内

普通の人が、普通の言葉で、普通に参加できる政治を実現します

愛する街だから、必死になれる。～松下政経塾出身・42才～

秋葉けんやの2年前の「公約」

3 環境先進県づくり

- ① 循環型社会の構築と環境教育の充実
- ② 自然エネルギー等の導入と省エネルギーの促進
- ③ 地球環境パートナーシッププラザの設置
- ④ 環境ホルモン対策の推進と食の安全・安心の確保 治安基盤の整備と犯罪被害者に対する支援強化

努力度 (40点満点)	達成度 (60点満点)	総合評価 (100点満点)	平均 トータル
35	45	80	66
40	32	72	
20	0	20	
35	44	79	
38	41	79	

持続的発展が可能な地球環境の保全と未来の子どものために



みやぎエコファクトリー創生事業、ゼロエミッションアドバイザーや環境産業コーディネーター派遣事業の実施など先進的な取組に挑戦しています。

秋葉議員が議員立法で自然エネルギー促進条例をつくってから今年の7月でちょうど3年目を迎えますが、ようやく今秋には「基本計画」が策定される見通しになっています。

H8年渋谷にできたこのプラザは環境省と国際連合大学が共同で運営する環境情報センターで、本県にもこの分室を設置したいと考えていましたが、未だ実現していません。H17年度から、具体的検討に入る見通しです。

H15年9月「みやぎ食の安全安心アクションプラン」が策定され、H16年3月には「みやぎ食の安全安心推進条例」が制定され、危機管理体制を確立するために本格的な取組がなされるようになりました。

本県は警察官の負担率が全国6位の高負担となっており、第一に警察官の増員が必要不可欠ですが、現状は十分ではありません。また、H16年4月には全国初の「犯罪被害者支援条例」が議員立法で成立し施行され、ようやく体制が整いつつあります。

4 教育問題の解決

- 基礎学力の向上と総合的な学習の時間の充実強化
- ひきこもり(不登校)児童・生徒の解消
- 小人数教育の実現と私学の振興
- 不適格教員の解消と授業評価制度の拡充
- 教員採用の多様化と民間からの学校長等の登用

努力度 (40点満点)	達成度 (60点満点)	総合評価 (100点満点)	平均 トータル
35	20	55	66
38	25	63	
36	40	76	
38	31	69	
36	33	69	



H16年2月の第300回目の節目となった定例会で西澤先生と。

新学習指導要領の実施に伴う学習内容の3割削減に、県議会でいち早く反対してきましたが、案の定、基礎学力は低下傾向にあり、習熟度別学習や補講の積極的な実施など今後とも対策の強化を訴えていきます。

H15年度、年間30日以上欠席した小学生は1087人(うち不登校395人)、中学生は2649人(うち不登校2015人)、高校の不登校者数は1997人で、ほぼ横ばい状態が続いていますが、本格的な追跡調査を実施するなど更にきめの細かいフォローアップが必要です。

H16年度から初めて県内のすべての小学校1・2年生を対象に35人学級が実現しました。また、本県の私学への補助金は全国的にみても極めて低調であり、拡充の必要性を力説してきました。

H15年3月「指導力不足教員の取扱いに関する規程」を策定し、6月には「教員の資質向上に関する調査研究会議」を設置するなど、いわゆる不適格教員(20数名いる)への対策により本腰を入れるようになってきましたが、まだ甘いといわざるを得ません。また、授業評価制度はH10年に秋葉議員が初めて議会で提言し、現在ではすべての県立高校で実施されるようになりましたが、大事なはこの趣旨が結果的に活かされ、わかりやすい授業の実践などに繋がる事です。

単に筆記試験の成績だけではなく、いわゆる一芸等に秀でた人材の採用など多様な人材が採用されるよう教員試験の多様化を提言した。また、H15年には初の民間出身の高校の校長が誕生し良い刺激を与えているが、今後とも拡大が必要です。

5 議会改革へチャレンジ

政策の条例化(議員立法)を積極的に実現

努力度 (40点満点)	達成度 (60点満点)	総合評価 (100点満点)	平均 トータル
40	40	80	80

この2年間の議員立法は、H15年12月に「犯罪被害者支援条例」、H16年7月に「ふるさと宮城の水循環保全条例」、「公社等外郭団体への関わり方の基本的事項を定める条例」、「文化芸術振興条例」の4本で、全国一の実績です。また、H15年の全国都道府県議会議長会主催のシンポジウムにおいて、秋葉議員は代表して、議員条例の作り方について意見発表し好評を得ました。さらに、宮城県議会議会改革検討委員会の第2ワーキンググループ座長として、議員条例の活性化策を取りまとめました。

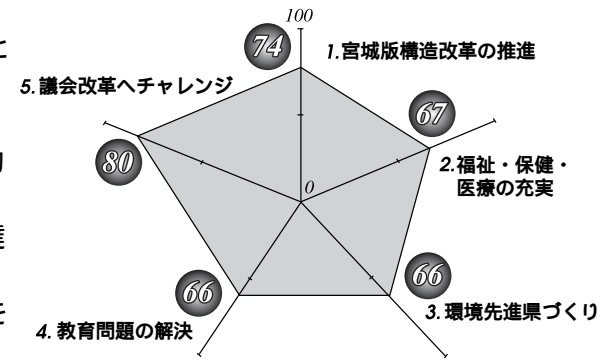


議員提案条例に県民の意見反映

H16年5月26日【河北新報より】

全国シンポジウムで議員条例の作り方をレクチャーする。

公約達成度の平均点は70%(点)です。



私は公約として5つの柱を掲げ、それを選挙公報や政策チラシにまとめて駅頭やミニ集会で配布・公表しました。

公約の達成は、私ひとりの力だけではできません。県民のみなさん、行政をはじめ、国会議員・県会議員・市会議員の方々それぞれの努力と協力があって初めて達成できるものです。

大切なのは『政治家の姿勢』そのものであり、自らに課した公約の達成に『本気』で取り組んだかどうかです。

もとより自己評価ではありますが、今後とも、自分の言葉に責任を持って一生懸命、実現目指して頑張ります!!

秋葉けんやの2年前の「公約」

1 宮城版構造改革の推進

- 行政改革の着実な実行と県財政の健全化 構造改革「特区」と「投資ファンド」の創設
- 離職者対策の拡充と新たな雇用(産業)の創出
- 行政評価システムの確立による県民満足度の向上
- 県民参加の促進と納税者への説明責任の徹底

努力度 (40点満点)	達成度 (60点満点)	総合評価 (100点満点)	平均 トータル
38	40	78	74
35	38	73	
35	38	73	
35	39	74	
35	39	74	

H16年6月「公社等外郭団体への関わり方の基本条例」を議員立法で制定し、第三者による経営評価の義務付けなどを定めるなど、行政改革への政策づくりを主導しました。

「起業家特区」構想や「投資ファンド」の創設を提言し、既存ファンドへの県投資を実現する。ワンストップで若年層の就職を支援する「みやぎジョブカフェ」の設置や障害者の雇用促進のためのモデル事業が実施され成果をあげています。

H13年に行政活動の評価に関する条例が策定され、一応体系的な取り組みがなされてきましたが、評価対象の見直しや評価結果の妥当性など、今度の課題を指摘し改善策を提案しました。

「県民サービス向上運動」の徹底や「県民の想い」データベースに寄せられる県民意見への返信内容(リスパンス)の充実を提言し、徐々に良くなってきました。

H16年11月5日【河北新報より】

行政の効率化へ 条例の導入を協議 県民サービスの向上 財政の健全化を推進 納税者への説明責任の徹底 納税者への説明責任の徹底 納税者への説明責任の徹底 納税者への説明責任の徹底



毎回、必ず質問に登場しています。

2 福祉・保健・医療の充実

- 介護保険サービスの質の向上と地域間格差の是正
- 障害者福祉サービスを介護保険の対象に
- 多様なグループホームの積極的展開
- 子育て支援の強化と保育所の増設及び虐待防止の充実
- 医師の地域偏在の解消と救急医療体制の充実

努力度 (40点満点)	達成度 (60点満点)	総合評価 (100点満点)	平均 トータル
32	34	66	67
30	28	58	
35	45	80	
30	35	65	
35	33	68	

今年で5年目を迎える介護保険ですが、利用者数は300万人を超え当初予想の2倍以上の利用状況です。相変わらず相談や苦情件数も多く、質の高いサービスの向上と特に市町村間の格差縮小に努めています。また、身体拘束の廃止に向けた取組を強化しました。

H15年4月から、障害のある人が自らサービス提供者を自由に選択し、契約によってサービスを利用するという「支援費制度」がスタートしました。これにより障害者の自己決定が尊重され、利用者本位のサービス提供が期待されます。

H16年6月現在で、知的障害者(140箇所)や精神障害者(37箇所)、痴呆性高齢者(91箇所)など多様なグループホームが設置されており、計画数を上回っている状況です。

いずれもまだまだ不十分な状況です。県では子ども総合センターを中心に、中央地域子どもセンター、古川地域子どもセンター、石巻地域子どもセンター、女性相談センターを設置し、第一線で対応にあたっています。

医師の確保対策は残念ながら不十分なままです。また、H15年5月「宮城県救急医療協議会」が設置され、本格的な協議が開始されましたが、救急搬送時間は全国ワーストクラスであり、特に受け入れ体制の拡充が急務となっています。



現場に足を運ぶことを大事にしています。